

「秩父教育第142号」の発刊に寄せて

秩父市教育委員会教育長 前 堅 進 一



今年度で142号を数えるこの「秩父教育」は、昭和31年に創刊され、教育に関する各幼稚園、各小・中学校としての取組や教職員個人としての取組のほか、教育情報なども掲載してきました。その後、教育研究所の調査・研究結果の報告や各幼稚園、各小・中学校の学校研究を紹介する「秩父市・教育研究」と統合する形で、現在の「秩父教育」として発刊しています。

秩父市教育委員会では、本年度も「未来の秩父を担う人材の育成と特色ある元気な学校づくりの推進」を目指し、「Ⅰ確かな学力と自立する力の育成、Ⅱ豊かな人間力と健やかな体の育成、Ⅲ秩父ならではの特色ある教育活動の推進、Ⅳ質の高い学校教育の推進」を大きな柱とした『秩父市学校創造スーパープラン』に基づいた教育を推進して参りました。

「一年の計は穀を樹^うるに如くは莫^なし、十年の計は木を樹^うるに如くは莫^なし、終身の計は人を樹^うるに如くは莫^なし」（管子）という格言があります。「一年の計画を立てるとしたら、その年内に収穫のある穀物を植えるのがよい。十年の計画を立てるとしたら、木を植えるのがよい。一生涯の計画を立てるつもりなら、人材を育成することだ。」というものであります。子どもは地域の宝であります。子どもたちの教育、つまり人づくりは非常に大切であります。各学校等において、教師が、子どもたち一人一人のよさや強みを伸ばし、知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童・生徒の育成に全力を尽くし、そのための時間や環境を整え、指導力の向上を図る取組を、さらに積極的に展開していただくことを期待しています。

結びに、貴重な原稿をお寄せいただきました幼稚園や各学校、多くの方々に感謝申し上げますとともに、秩父市の教育の益々の発展を祈念申し上げ、発刊にあたってのあいさつといたします。

目 次

巻頭言

秩父市教育委員会教育長 前 堅 進 一

I 幼稚園における園内研修の取組

- | | | | |
|---|------------------------------------|-------|---|
| 1 | のびのび保育を実践し、保護者・地域社会に信頼される
荒川幼稚園 | 荒川幼稚園 | 4 |
|---|------------------------------------|-------|---|

II 小学校における校内研修の取組

- | | | | |
|----|--|---------|----|
| 1 | 運動の楽しさや喜びを味わい、共に学ぶ児童の育成
ー運動の特性にふれ、楽しさ・喜びを味わわせる体育科授業の充実ー | 秩父第一小学校 | 6 |
| 2 | 児童が気付き主体的に活動し、安心・安全で思いやりあふれる
教育環境づくりの工夫 | 花の木小学校 | 8 |
| 3 | 言語活動を充実させ、
児童の思考力・表現力を伸ばす指導方法の工夫 | 西小学校 | 10 |
| 4 | 安心・安全な学校の創造
～互いを尊重する学習集団を形成できる子の育成～ | 南小学校 | 12 |
| 5 | 伝え合う力を身につけさせる指導の工夫
～国語科を中心として～ | 尾田蒔小学校 | 14 |
| 6 | 特別支援教育の視点に立った授業の改善
～基礎学力の向上を目指して～ | 原谷小学校 | 16 |
| 7 | 確かな学力を身につけ、生き生きと表現活動に取り組む児童の育
成をめざして | 久那小学校 | 18 |
| 8 | 自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成 | 高篠小学校 | 20 |
| 9 | 学力向上を目指した学習指導の工夫
～表現力（発表力）の育成を通して～ | 大田小学校 | 22 |
| 10 | 「考え、話し合い、学び合う」推進事業を受けて | 影森小学校 | 24 |
| 11 | 進んで学び合い心豊かでたくましい子の育成
～よく知って、しっかり食べて、大好きになる食育指導のあり方～ | 吉田小学校 | 26 |
| 12 | 学力向上と豊かな心の育成
～言語活動の充実をとおして～ | 荒川東小学校 | 28 |
| 13 | 学力向上と豊かな心の育成
ー言語活動の充実をめざした授業の工夫改善
心豊かな児童を育てる活動の充実ー | 荒川西小学校 | 30 |

Ⅲ 中学校における校内研修の取組

1	思考力・表現力を身につけ、学習に意欲的に取り組む生徒の育成 ～言語活動の向上を目指した学習指導を基盤として～	秩父第一中学校	3 2
2	安心・安全な教育環境づくり ～豊かな心と危険回避能力の育成～	秩父第二中学校	3 4
3	すべての生徒が嬉々として登校できる学校の創造 ～授業力の向上と基礎学力の定着をめざして～	尾田蒔中学校	3 6
4	確かな学力の育成 －基礎・基本を身に付け、意欲を高めるための指導の工夫－	高篠中学校	3 8
5	個に応じたわかりやすい授業の創造 ～基礎・基本を定着させ、意欲的に取り組む授業の展開～	大田中学校	4 0
6	考え、話し合い、学び合う学習の推進	影森中学校	4 2
7	基礎学力・学習意欲の向上を目指し、互いに高め合う生徒の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫～	吉田中学校	4 4
8	自ら考え、自分の夢を語れる生徒の育成 ～個を育てるキャリア教育の充実を通して～	大滝中学校	4 6
9	学力向上と豊かな心の育成 ～種をまき、水をやり、しっかり見届ける教育～	荒川中学校	4 8

Ⅳ 初任者としての1年を振り返って

秩父第一小学校	菊池早紀子	5 0
秩父第一小学校	菅野 晴仁	5 1
花の木小学校	堀口 直美	5 2
西小学校	大塚 史子	5 3
南小学校	井上 直美	5 4
南小学校	飯塚 由枝	5 5
尾田蒔小学校	北原 直	5 6
尾田蒔小学校	杉田友里奈	5 7
原谷小学校	山中いずみ	5 8
影森小学校	島貫紗弥香	5 9
荒川東小学校	小林 弘和	6 0
秩父第一中学校	岡田 真弘	6 1
秩父第一中学校	町田 翔平	6 2
秩父第二中学校	松澤拓比古	6 3
尾田蒔中学校	奥平 夕稀	6 4
影森中学校	坂本 裕樹	6 5
荒川中学校	佐藤 千華	6 6

平成26年度 秩父市学校創造スーパープラン

編集後記

I 幼稚園における園内研修の取組

「志を立ててをもって万事の源となす」

吉田松陰

のびのび保育を実践し、保護者・地域社会に信頼される荒川幼稚園

秩父市立荒川幼稚園

1 はじめに

近年、核家族化、都市化、少子化、地域とのつながりなどの希薄化がすすんでいる。

本園は2年保育の幼稚園で、年長（ひまわり組）13名、年中（すみれ組）7名の2クラスのみ、縦割り保育で活動している。

「げんきに なかよく じぶんから」を教育目標に保護者（PTA）の方々の協力を得て、「のびのび保育の実践、保護者や地域社会に信頼させる幼稚園」を目指し、小規模幼稚園ならではの行事や野菜・植物の栽培、体験活動を通して日々の保育の充実に努めている。

2 取組の概要（実践）

（1）行事を通して

ア 世代間交流

荒川公民館で行っている「寿大学」の方と交流会を年に一度行っている。お年寄りと交流することで、思いやりの心を育てお年寄りも子ども達とかかわることで「元気をもらった」などと喜んでくれている。交流をすることで顔見知りになり、散歩に出かけると声をかけてくれたり、「声がしたから出てきたよ」と家から出てきてくれたりして触れ合うようになった。



イ 祖父母参観

敬老の日にちなみ、祖父母に手紙を書いたり、一緒に十五夜団子作りをしたり、作った団子を一緒に食べたりしている。一緒に手遊びなどするとお互いがとてもにこやかで、楽しいふれあいのひと時を過ごしている。いつもお世話になっている祖父母に感謝の気持ちを育み、一緒に活動することでより親しみを感じ、祖父母が子ども達や園の活動に関心を持ってくれるようになった。

ウ 散歩

近所を散歩しながら花ハスや水芭蕉をみたり、地域の方に手伝ってもらって、水辺の動植物に触れたりして楽しむことができた。「道の駅あらかわ」の売店では量や金額などを園児用に特別に用意していただいてソフトクリームを食べたりリンゴ園でも一人一つずつリンゴ狩りを体験させてもらったりして地域の方の協力により子ども達が色々な経験を重ねることができた。近所に散歩に出かけ、実体験を通して自然の素晴らしさや地域の方々の心のこもった優しい思いやりに触れることができた。



エ クリスマス会

子ども達の父母をはじめ、兄弟姉妹、祖父母、親戚の方々、来年度入所予定の子ども達も招待し、和やかな雰囲気の中行うことができた。第一部の発表会では、子ども達による歌・器楽合奏・ダンスが行われた。身近な方々をお客様として迎え入れ少々緊張気味ではあったが、温かな拍手をたくさん頂きとてもうれしそうであった。今後の大きな自信につながったと思われる。



また、第二部のパーティにおいては、PTAの役員の方々が進んでコーナーを担当してくださり、「みんなにスキンシップなプレゼント」「からしパン食べたの、だ〜れ」という2つのゲームが行われた。簡単なゲームであったが、自分の親以外の大人と触れ合ったり、遊

んだりすることで一層心を開き、親近感が増したようであった。

(2) 野菜の栽培と調理体験を通して

今年度、幼稚園の農園では、ジャガイモ、キュウリ、ナス、トマト、オクラ、スイカ、長ネギ、カボチャ、サツマイモ、ダイコン、ハクサイ、かき菜、サヤエンドウ等の栽培に取り組んだ。

農作業の知識が少ない職員を援助してくれたのは、園児送迎バスの運転手さんだった。本当に心強い畑の先生でたくさんのことを教えて頂いた。畑には、野菜の絵と名前を書いた立札を年長児が作って立てた。散歩中の地域のお年寄りも野菜の生育に関心を示し「大きくなったね」「いっぱいとれて良かったね」などと子ども達に声をかけてくれるようになった。

自分達で種まきをして水やりをして収穫した野菜には、特別な思いがあるようで「幼稚園の野菜」は普段野菜を口にしない子でも食べられた。また、収穫した野菜を使って調理体験もすることができた。ポテトサラダやカレー、焼き芋、けんちん汁、サツマイモの茶巾絞り等、保護者の方々にお手伝いして頂きながら、年齢に合わせた取り組みをすることができた。



(3) 植物の栽培を通して

当園には、ご厚意で、花の苗や球根を幼稚園に度々持ってきてくださる方がいる。頂いた苗や球根は、子ども達が花壇やプランターに植えて水やりや肥料を与えながら育てている。毎日毎日関わることで草花の成長に関心をもち、自分達の花・自分達の花壇という意識が高められているようだ。そんな子ども達の姿を見て通りかかった地域の方々が「頑張るね」「綺麗に咲いたね」などと、柵の向こう側から優しく声をかけてくれる。中には「もう咲いたかなと思って見に来たよ」という方もおられるほどである。地域の方々も花を通して、子ども達の活動に関心を示してくれているようだ。また、お花をくださる方は週末毎に水くれに来園し、その時に子ども達が大切にお花を育てていることを感じとってくださっているようだ。子ども達はなかなかお会いすることがないので、お礼の手紙を書くことで感謝の気持ちを伝えている。



3 成果

- (1) いろいろな行事を経験することにより、子供たち一人一人が周りの大人（近隣に住む住民・高齢者・保護者）に対し心を開き、自分から挨拶したり、話しかけたりするなど興味・関心・尊敬・感謝の念を高めることができた。また、子供たちの情緒が安定し、園生活に積極的に取り組んでいけるようになった。
- (2) 保護者・地域の方々からも子ども達の活動に注目を受けるようになり関心度が増し、さらに支援、理解が深まった。
- (3) 野菜栽培の直接体験をすることで、五感を通して食べ物への興味・関心が高まり、食事に対する意欲も向上した。
- (4) 家庭においても園から持ち帰った野菜を使って、親子で様々な料理を作ることができ、喜びや達成感を味わうことができた。
- (5) 四季折々に咲く花々を育てることにより、季節の移り変わりに気付き、視覚・臭覚・色覚触覚などに刺激を受け、自然の美しさ、心の安らぎを実感することができた。

4 今後の課題

- (1) 可能な限り地域のイベントや行事に参加し、園をアピールしていくこと。
- (2) 地域の方々（お年寄りに限らず）が来園できる機会を増やすこと。
(例 運動会…公の場所などあちこちにポスター等掲示し呼びかける)

(担当 主幹教諭 塚越路子)

Ⅱ 小学校における校内研修の取組

「これを知る者はこれを好む者に如かず
これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」

孔子『論語』

運動の楽しさや喜びを味わい、共に学ぶ児童の育成
— 運動の特性にふれ、楽しさ・喜びを味わわせる体育科授業の充実 —

秩父市立秩父第一小学校

1 はじめに

本校では平成23年度から3年間、言語活動の研究を通して「説明する力を身に付けさせる指導の充実」に取り組んできた。様々な教科・領域において研究授業を行い、目標達成に向けた研究を続けてきた。その結果、言語活動に対する教師の意識も高まり、児童の発表の内容も充実してきた。

本年度は本校の課題の一つである「体力向上」を校内研修の柱に据え、「体育科授業の改善」を通して児童の体力向上を図ることにした。なお、本年度は研究の1年目であり、先進校の取組や県教委の資料等を活用して、体育に対する考え方や体育科授業への取り組み方について共通理解を図り研究を進めてきた。また、研究授業を通して教師の指導力向上も図ってきた。

2 学校教育目標と体育科との関連

- ・健康で元気な子　～あかるく～

3 体育科でめざす児童像

低 学 年	中 学 年	高 学 年
・仲よく、楽しく運動する子	・友達と励ましあいながら、力いっぱい運動する子	・仲間と協力し合い、積極的に運動に取り組む子
・思いきり運動する子	・自分のめあてをもって運動する子	・自分の課題を知り、めあてを持って運動する子

4 体育科授業への取組

(1) 体育授業の基本

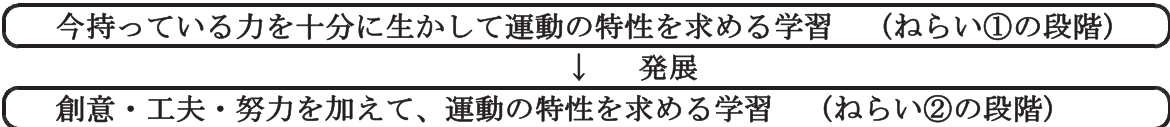
ア 運動の特性にふれ、楽しさ・喜びを味わわせることのできる授業 イ 運動の学び方をおさえた、規律ある授業 ウ 児童の活動時間・運動量が十分に確保された授業 エ 体力向上と、体を動かすことの楽しさが並列の関係にあることをおさえた授業
--

(2) 準備運動

- ア 『走運動』を授業に取り入れられるよう努力する。(例：50m全力ダッシュ1本)
- イ 教師主導の一律的な進め方のみでなく、児童だけでも安全かつ効率的に進められるようにする。(グループ別準備運動等)
- ウ 主運動につながる運動を取り入れる。(特性にふれる、慣れの運動)
- エ 彩の国チャレンジプログラム『すくすくプログラム』の積極的導入

(3) 主運動

- ア 個人差に応じ、運動の楽しさ・喜びを味わわせる体育科授業では、学習のねらいを中心に置く学習過程の工夫が必要である。



(4) 整理運動

- ア 使用した部位を中心とした、クールダウンを図る。
- イ ストレッチも効率的に取り入れる。

(5) 評 価

- ア 指導した内容を適切に評価する。(指導していないことは評価しない。)
- イ 『また次もやりたい』という児童の意欲につながる評価をする。

- ウ 本時のねらいに合った動きや学び方をしていた児童・グループを紹介し、賞賛する。
 - エ 努力していた児童や友達に親切にしていた児童、進んで準備していた児童を賞賛する。
- ※自己評価カード等は授業中に記入させることが望ましいが、授業後、教室で記入させてもよい。

(6) 見学者の授業参加について

- ア 得点係や記録係等、積極的にグループ活動やゲームに引き込んでいく。
- イ 見学カード等の記入をさせることで、『見て学ぶ』態度を養う。

5 授業実践

(1) 第2学年研究授業

平成26年7月3日(木) 授業者 佐藤 絢 教諭

ア 単元名 「多様な動きをつくる運動遊び」
(体づくり運動)

イ 本時の目標 約束を守り仲よく運動したり、安全に
気をつけたりして進んで運動することができる。(関心・意欲・態度)



ウ 学習内容

(ア) ねらい1 Gボールと仲よしになって、いろいろな体を動かすことができる。

- ・Gボールに乗ったり、Gボールで体を反らしたりする。

(イ) ねらい2 わくわくぼうけんツアーで、いろいろな遊びに挑戦し、体力を高めることができる。

- ・マット、ボール、平均台、フラフープで4つの活動の場をつくる。

エ 主な指導と助言 秩父市教育研究所指導主事兼主幹 中山浩一先生

- ・Gボールは児童の体格にあったものを使うこと、また、約束を守らせることが大切。
- ・それぞれの動物の動きの特徴のポイントを掲示して知らせることが大切。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた自己評価はすばらしかった。(「晴れ」・「くもり」・「雨」)

(2) 第6学年研究授業

平成26年11月21日(金) 授業者 板橋英生 教諭

ア 単元名 「One for All フラッグフットボール」
(ゴール型：ボール運動)

イ 本時の目標 だれがボールを持っているかわからない
ように走ったり、相手チームの動きを阻止したりできる。(技能)



ウ 学習内容

ねらい1 ハドルをいかしてゲームを楽しもう。

- ・3対2のフルゲーム。誰がボールを持っているかわからないように走ったり、相手チームの動きを阻止したりする。

エ 主な指導と助言 秩父市教育研究所指導主事兼主幹 中山浩一先生

- ・ゲームの中で一人一人の動きや役割がはっきりしていた。掲示板を使っての具体的な指導が効果的であった。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を積極的に取り入れた先進的な授業だった。(指や腕の動きを活用した指示、笛のふき方による指示、音楽による合図等)

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・体育科授業の基礎基本を改めて学び、授業展開の仕方や評価の仕方について共通理解を図ることができた。
- ・体育科授業にユニバーサルデザインの考え方を取り入れるようになった。

(2) 課題

- ・本年度共通理解した授業展開の仕方や評価の仕方等を実際の授業を通して実践し、更に本校の実態に合ったものに改善していくことが課題である。

(担当 教諭 石森澄治)

児童が気付き主体的に活動し、

安心・安全で思いやりあふれる教育環境づくりの工夫

秩父市立花の木小学校

1 研究主題設定の理由

本校は、平成25年度～27年度秩父市教育委員会から「セーフスクール推進校」の委嘱を受け、「児童が気付き主体的に活動し、安心・安全で思いやりあふれる教育環境づくりの工夫」をテーマに研究を進めている。本学区は、古くから中心市街地を形成された地区であるため、道幅が狭く、交通量も多いので、安全指導の充実が課題といえる。また、本校の安心・安全に対する課題を整理すると①軽微なケガ大きなケガとも遊具の操作を含めた校庭でのケガが多い②自転車の乗り方が悪くなっている③安全な登下校の指導が必要である④心の教育（思いやりあふれる教育）がより一層必要である、以上4点が課題であるといえる。この課題解決に向け、児童が校舎内外で想定されるけがや事故等に気付き、主体的に行動できることをねらいとし、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

校舎内外、学区域でのけがや事故・災害に気付き、状況を捉え、話し合い活動を進め安心・安全で思いやりあふれる学校にしようとする主体的に行動できることをねらいとし、児童・教職員・地域が一体となった安心・安全で思いやりあふれる教育環境づくりを図る。

3 具体的目標

(1) 目指す児童像

○低学年

日常生活の中の身の回りの危険を予測し、回避する方法を考え自分の判断で行動する子

○高学年

今までの経験や学習から危険を予測し、回避する方法を考え、自分の判断で行動する子

(2) 研究の仮説

校舎内外での身近なけがや事故・災害を自分事として捉え気付き、主体的な課題解決型学習を展開していけば、自ら危険を予測し、回避する判断力や行動力につながるであろう。

(3) 研究内容・方法

◇1 課題解決型の学習の取組

- ①体験などから、自分事として問題意識をもつ。
- ②けがや事故などの要因をとらえ、解決策を見出す。
- ③意見交流、発表等を通し、意識化を図る。
- ④振り返り評価する。



○関係教科との関連を図る。


◇2 児童変容の見取り

- ①授業の活動に沿った評価規準の設定と、適切な児童への支援を行う。
- ②意識変容と行動変容の実証。
 - ・指導前後のデータの分析・評価
 - ・教師の評価と自己評価
- ③日常的な安全指導
- ④振り返り評価する。



○日常的な安全指導や重点的な安全指導を通し、行動化を図る。

4 研究計画の概要

1 学期	① 研究テーマ、研究組織、研究全体構想などの検討・確認 ② インターナショナルセーフスクール国際審査団学校訪問（5月30日（金）） ③ 要請訪問1回目（6月18日（水）：2年2組 学級活動「ろう下の歩き方」）
夏季 休業中	① インターナショナルセーフスクール研修会（8月5日（火）豊島区立朋有小） ISSの取組の発表、他校と情報交換 ② 全体研修会（8月12日（火）ISS国際審査団白石陽子先生来校） （年度前半の成果と課題の明確化、質疑、指導講評、今後の方向性の確認）
2 学期	① 全体研修会及びブロック別授業部会（要請訪問授業の構想・指導案検討） ② 花小学区まちの安全点検マップ作り 秩父市役所危機管理課主催 （9月6日（土）：明治大学、本校職員、本校児童、保護者参加） ③ ISS産業技術総合研究所 西田佳史先生来校  ④ 要請訪問2回目（11月19日（水）：5年1組体育保健領域「けがの防止」） ⑤ ISS全校集会（11月25日（火）：ISS国際審査団白石陽子先生来校） ⑥ 12月9日（火）支援担当学校訪問（6年2組学級活動ISS活動を振り返って）
3 学期	① 今年度の研究成果と課題の明確化 研究のまとめ作成 ② 花小セーフクリーン運動（6年生が学校応援サポーターズの方と一緒に点検） ③ 美和ロック（株）による防犯ボランティア授業「楽しい防犯教室（1、2年）」 ④ 青少年メディア研究協会下田太一先生による職員研修「ネット環境の理解」 ⑤ 次年度の研究計画（ISS本審査・認証式に向けて）など

5 授業における具体的な取組

(1) 第1回授業研究会（第2学年2組 学級活動 授業者 堀口直美 教諭）

ア 本時の目標

実験や体験を通して正しい廊下の歩き方がわかり、安全に歩こうとする態度を育てる。

イ 具体的な取組

- 子どもの主体性を重視する。（事前指導から）
- 子どもから安全について引き出す。（意見交換）
- 体験や活動を通して学ぶ。（右側通行の実験）



(2) 第2回授業研究会（第5学年1組 保健 授業者 増 雅代 教諭）

ア 本時の目標

自分たちの生活での事故の原因について予想し、人の行動と環境の関係を考え説明する。

イ 具体的な取組

- 場面絵を読み取り、危険に気づく能力を高める。
- 原因となる行動、環境やその時の心の状態に着目し、話し合う。
- 事故の原因を「人の行動」と「環境」という観点でまとめる。



6 研究の成果

(1) 花小学区の安心安全に関する課題に対して、秩父市セーフコミュニティ、子ども・学校・地域が一体となって、ISS8つの指標に基づいた取組を展開することができた。

(2) ISS委員会が掲げたスローガン「つくろうよ！安心・安全花の木小」に沿って、児童が気付き主体的な活動が展開できるよう、組織的に取り組むことができた。

(3) 危険を予測回避する能力育成の授業研究から目指す児童像につなげることができた。

7 今後の課題

(1) データ分析を行い、取組がISS指標や根拠に基づいたものになるよう整理する。

(2) 安全指導マニュアル、チェックカードを充実する。（担当 教諭 平岡大祐）